













赤外線写真





前で宝剣を執る。右足を外にして結跏趺坐する。

②品質構造

帝本像は大変複雑な構造を持ち、修理に立ち会われた伊東史朗氏の報告が現段階ではもっとも正確なため、同氏の了解のもと記述を転載する。

木造（ヒノキ材）。寄木造り。古色。玉眼。

根幹部の基本的構造を、面部内側（挿図一）から判断すると、頭部は両耳後ろの位置で前後に寄せて、その前方はほぼ正中（若干左寄り）で二材（a・b）を後方はさらにその左寄りで二材（c・d）をいずれも左右に寄せて、都合、前後左右の四材からなる。

一方、像底（挿図二）からの観察によると、頭部前二材（a・b）の延長と思



像底



挿図二（底板を除いてある状態。gの上に付がのるが、写真ではみえない）



挿図一